

<5月第1例会報告>

フラを通して学ぶアロハスピリット

書記 杉本隆人

・日時：2017年5月18日（木）
19:00～21:00

・場所：西神戸YMCA

・出席者：佐伯、杉本、達、田辺、
丹家、長坂、中村、野呂、檜木、藤井(信)、藤井(久)
(メネ) 佐伯、宗利



ゲスト：

1. 開会式

- ・ドライバー・杉本書記より式の進め方につき説明
- ・開会点鐘・佐伯副会長、ワイズソング斉唱、今月の聖句朗読・ドライバー、

2. 講演・演舞「フラを通して学ぶアロハスピリット」

- ・講師：石田由美子氏（宝塚クラブ）
- ・演舞者：マハロ（関西学院大学三田キャンパス、フラサークル）川端朋佳さん、寺西未来さん、作埜絵美さん

・演舞曲：(1)カネオヘ (2)ハナ
(3)しあわせ運べるように

今回は2回目のフラでしたが、マハロの皆さんは試験日と重なり、数が少なくなってしまったのがとても残念でした。

石田講師から、先ず、フラにまつわるハワイの文化と歴史の説明があった。火の神ペレに捧げる踊りとして始まった。文字がなかったため、文化や生活様式を伝えるため、そしてカラカウア大王の時には、フラに西洋の文化を取り入れつつ、豪華なコスチュームを着て歌い踊るようになった。



次に石田講師のフラ、続いて3名の乙女たちのフラが続いた。振付の意味、表現方法を噛みしめたフラとなり、フラの醍醐味を感じることができた。華やかな衣装に包



まれた彼女たちのフラは華麗で素晴らしく、盛んな拍手が送られた。

石田ワイズ、マハロの皆さん、ありがとうございました。

<6月事務例会報告>

書記 杉本隆人

- ・日時：2017年6月1日（木曜）19:00～21:00
- ・場所：西神戸YMCA
- ・出席者：合田、佐伯、杉本、館、達、田辺、丹家、中村、野呂、檜木、藤井(信)、藤井(久)

1. 報告事項

- (1) 六甲部現・次期引継ぎ会・杉本次期六甲部部长
日時：5月30日（火）18:30～20:30
場所：神戸YMCA 310
出席者：杉本、田辺、中村、野呂、藤井
- (2) 玉ねぎファンドについて…中村会計
- (3) 小豆島キャンプ場「余島」クルージングの旅（中村メン）
日時：5月23日（火）～24日（水）
参加者：佐伯、杉本、長坂、中村、檜木
詳細は3～4頁をご覧ください。

(4) 6月例会

- ・6月1日（木）事務例会
- ・15日（木）第1例会 2016-17の振り返りと次期に向けて

2. 協議事項

(1) 第20回神戸YMCAチャリティーラン第1回 実行委員会

- ・日時：6月5日(月)19:00~21:00
- ・場所：神戸市青少年会館 サークル室1
- ・出席予定者：藤井会長

(2) 中部部会&金澤クラブ70周年記念式典

- ・日時：2017年9月18日(月・祝)12~17時
(部会前に金沢城・兼六園ツアー)
- ・場所：金沢ニューグランドホテル・会費：1万円

(小豆島) 余島へのクルージング

副会長 佐伯一丸

昨年入会された檜木善隆氏が15人乗りの32フィート・ヨットを持っていることが分かってから、中村氏が是非余島までクルージングをしようと檜木さんを口説き、実現したものである。



都合の悪い人、船に弱い人を除いて学園ワイズの5人のメンバー、船長の檜木氏、中村氏、杉本氏、長坂井、それに私が参加した。

5月23日(火)、学園YMCAに朝8時集合。杉本氏の車で相生ヨットハーバーへ。その途中でコンビニにより、酒のつまみなどを買い求める。

約30分の荷物の積み込みなどの出港準備の後、10時ころに出航した。天気よし、景色よし、エンジン音を響かせながら相生湾を出て播磨灘へ、そして沖に浮かぶ家島諸島の坊勢島の坊勢の漁港に入る。予定より少し遅れたが、良い昼食時となった。

目的は船長行きつけの「乱菊すし」名物の「鯖のしゃぶしゃぶ」である。予約済みの料理。NHKでも放送されたとのこと。生け簀で泳いでいた鯖を取ってきて、鰹料理のように骨ごと薄切り・12センチくらい



の長さにしたもの。3秒間程度お湯に浸し、だし汁につけて食べる。これが鯖とは思えないほどの美味。もちろんビールと日本酒で乾杯。

他に鯖の刺身、鯖の握り、サワラの玉子、おつゆが出た。昼飯にしては豪華すぎたが、満腹、7200円也。

再び播磨灘へ出て、一路小豆島の北回りで余島へ向かう。潮は逆向きの流れで、帆を上げて6~7ノットのスピード。船長の手ほどきを受けて順番に舵を握らせてもらった。GPSを見るため、少し前方から目を逸らすと方向が90度右へ行ったり左へ行ったり。それでも余島へ着くころには、かじ取りの腕は上達した。

18時頃余島に到着。事前に坂本さんに連絡し、モーターボートで迎えに来て貰った。ヨットの繫留場所を確認・繫留して上陸した。

YMCA事務所まで歩き、宿泊の手続きをする。

到着が遅かったので、風呂前に夕食。ビールで乾杯。夕食そのものは、お刺身、アサリの酒蒸し、かまぼこ、漬物など、とても美味しかった。

そしてさっと入浴。その後は、我々の建屋のリビングに集まり、持ち込みの酒、ビール、つまみで、飲みながら、鯖のしゃぶしゃぶの美味しかったこと、ヨットの操舵のこと、余島のキャンプリーダーの経験など10時半ころまで話し合った。朝が早かったので、このあたりでお開きとなった。

釣竿を持ってきた長坂さんは、4時起きで釣りに出掛けたが、坊主に終わったようだ。

8時からの朝食までに時間があつたので、リーダーOBの中村さんの案内で余島の見どころを案内してもらった。

朝食を終えて事務所に集まり、清算する。小型トラックで荷物を棧橋まで運んでもらう。モーターボートでヨットまで運んでもらう。

10時頃出航。今度は小豆島の南回りで相生湾に向かう。潮の流れは良かったが、風邪は向かい風。帆を

上げて静に進むわけにはいかなかった。所々で海面が泡立ち、いかなごの群れがいるようだった。

帰りの昼食は、船長が入れてくれたコーヒー、カップラーメン、味噌汁で、これもヨットの雰囲気乙なものであった。

相生のヨットハーバーに午後3時頃到着。荷物を降ろして、車に積み込み、4時半頃に無事学園 YMCA に到着した。

船長さん曰く、掛け合い漫才を聞いているようで、こんなに楽しかったクルージングは初めてだったと慰めを言ってもらった。船上では我々は何をして良いか分からず、うろうろするばかりであったが、船長一人に負担をかけて、初めてのクルージングを楽しませていただいた。



今月の聖句

強い者は強くない者の弱さをになうべきである

わたしたち強い者は、強くない者の弱さを担うべきであり、自分の満足を求めるべきではありません。おのおの善を行って隣人を喜ばせ、互いの向上に努めるべきです。キリストも御自分の満足はお求めになりませんでした。「あなたをそしる者のそしりが、わたしにふりかかった」と書いてあるとおりです。

(ローマの信徒への手紙 15 章 1 節～3 節)

「人は独りでは生きられない存在」であり「例外なくだれかの助けを必要とする存在」なことを回心を機に痛感したパウロは、イエスが弱い者に寄り添ったように、神の恵みにあずかって「強め」られているあなたたちは、「弱さ」を抱える人たちに手を差し伸べるように、と説いた。

かつてキリスト者迫害に意欲満々だったパウロは、目が見えなくなるという「弱い」立場におちいるが、「回心」によって神の恵みにあずかり「強め」られた。だから「強い者は、強くない者の弱さをになうべき」はパウロの実感から出た言葉だった。

「弱さ」と訳されるギリシャ語「アスセネイヤ」は、「本来の姿」を失っていることから来る「無力」を表し、「病気」と訳されることもあるという。パウロも回心によって「ほんとうの自分」に目覚めた。「あなたをそしる者のそしりが、私の上にふりかかった」は旧約聖書の「詩篇」からの引用で、イエスが人びとの「そしり」を引き受け、十字架にかかったことを表している。

～斎藤孝著「声に出して読みたい新約聖書」草思社より～